研究主題

未来を拓く国語教育の創造

―評価活動の充実を通して、学びの質を高める単元づくり―

言語部　研究主題

言葉のよさに気付き、親しみ、日常生活に生かす単元づくりと評価

第２学年国語科学習指導案

単元名

「心の中をのぞいて日記に書こう（仮）」

学習材名「きつねのおきゃくさま」（教育出版　２年上、学校図書　２年下）

『きつねのおきゃくさま』（作：あまんきみこ　絵：ニ俣英五郎　出版社：サンリード）

日　時：令和４年２月18日(金)	５校時		
児　童：文京区立千駄木小学校	第２学年３組		28名
担　任：文京区立千駄木小学校	教　諭	島田	裕代
指導者：大田区立田園調布小学校	主任教諭	小木	和美

１　単元の目標

（１）身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすることができる。〔知識及び技能〕（１）オ

（２）「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。〔思考力、判断力、表現力等〕Ｃ（１）エ

（３）言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。「学びに向かう力、人間性等」

２　単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	①身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。（（１）オ）	①「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。（Ｃ（１）エ）	①進んで登場人物の様子や行動に着目して具体的に想像し、学習課題に沿って、学んだことを生かして中心人物の行動やその理由を表現しようとしている。

３　単元構想

（１）児童について（児童観）

文学的な文章を読むことにおいて、第１学年では「やくそく」「くじらぐも」「たぬきの糸車」（光村図書）、第２学年では「スイミー」「お手紙」「スーホの白い馬」（光村図書）といった学習材を用いて「場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉える力」、「場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像する力」を身に付けるための学習を積み重ねてきた。

１学期に学習した「スイミー」では、中心人物のスイミーの行動に着目しながら、物語の展開や場面の様子を表す表現の面白さに想像を広げたり、叙述や挿絵を手掛かりにして自分の考えをもち、友達と考えを交流したりする学習をした。２学期の「スーホの白い馬」では、モンゴルの情景や場面の様子、登場人物の言

動に込められた気持ちなどについて、想像を広げながら作品を読んだ。登場人物の言動を対比させたり、時間を表す言葉に着目して出来事の順序や場面の移り変わりを捉えたり、複合語に着目させたりすることで、登場人物の様子について、想像を広げながら読むことを指導した。学習を進める中で、動作化を通して考えを深めたり、自身の経験を根拠にして意見を述べたりする様子も見られ、具体的に想像する学習活動への意識が高まりつつある。

本単元を行うに当たり、国語科の学習や言葉に関する意識調査を行った。結果は以下のとおりである。

（令和３年 12 月 23 日実施　28 名）

質問	児童の回答	人数（割合※小数第１位四捨五入）
①国語科の学習は好きですか。 （選択式）	・好き ・どちらかといえば好き ・どちらかといえば好きではない ・好きではない	14 名（50％） 14 名（50％） ０名（０％） ０名（０％）
②国語科では、どの学習が好きですか。 （選択式・複数回答）	・物語文を読む学習 ・説明文を読む学習 ・スピーチ、話合い、発表などの話すこと・聞くことの学習 ・文章を書く学習 ・音読の学習 ・言葉についての学習 ・漢字についての学習	20 名（71％） 18 名（64％） 12 名（43％） 19 名（68％） 20 名（71％） 19 名（68％） 26 名（93％）
③日記を書いたことがありますか。 日記を書くことは好きですか。 （選択式）	・ある ・ない あると答えた児童のうち ・好き ・どちらかといえば好き ・どちらかといえば好きではない ・好きではない	27 名（96％） １名（４％） 16 名（57％） ８名（29％） ３名（11％） １名（３％）
④これまで読んだお話に出てくる「きつね」はどんな人でしたか。 （記述式）	〈＋のイメージ〉 ・優しい（７名）、おもしろいことをする（３名）、足が速い（２名）、かわいい（１名）、にっこりしている（１名） 〈－のイメージ〉 ・いたずら好き（16 名）、食いしん坊（１名）、こわい（１名）、うっかりしている（１名）、化け物（１名） 〈その他〉 ・お花が好き（１名）、神に仕えている（１名）	

意識調査の結果から、国語科の学習に対し 100％の児童が「好き」「どちらかといえば好き」だと感じており、学級全体に意欲的に国語科の学習に取り組む雰囲気がある。

国語科でどの学習が好きかを問う設問では、物語文を読む学習・音読の学習を選択した児童の割合が 70％以上と高く、これまでの学習経験を通じて読むことの楽しさを十分に感じている児童が多い。漢字についての学習が 93％、言葉についての学習が 68％と高いことから、新しい言葉に出合い、習得することを楽しんでいることが分かる。本単元でも言葉に着目させ、その言葉の意味を文脈の中で考え、登場人物の行動を具体的に想像することにつなげていく。一方、話すこと・聞くことの学習については 43％と、好ましい印象までは至っていない児童が半数以上であった。相手の意見を聞いて理解することで自分の学びにもなることに気付かせ、発表の際に安心して発言できる雰囲気づくりを意識的に行っていく。

日記を書いたことがある児童は 96％とほぼ全員である。文章を書く活動では 68％が好きと答えているが、日記を書く活動では 86％の児童が「好き」「どちらかといえば好き」と答えており、日記に対する抵抗感も少ない。本単元での読み取りを日記に表していく活動にも、取り組みやすいと考える。同時に、経験がない児童や苦手意識をもっている児童には、個別に書き方の例を示す等対応していく。

学習材の中心人物「きつね」に対しては、良くない印象である「いたずら好き」というイメージをもっている児童が 56％と半数以上、次いで「優しい」が７名の 25％となっている。学習材前半の「食べたい」きつねの姿から、学習材後半の「守りたい」きつねの姿への変容に気付かせ、その理由を考えさせる学習課題を作ることは児童の思考の流れにも沿っていると考えた。

これまでの学習経験を生かして、本単元では叙述や挿絵を手掛かりにして登場人物の言動に込められた気

持ちを想像しながら読み進めていく。特に、登場人物の行動や様子をくわしくする言葉に着目させる。叙述を基に登場人物の行動や様子について、何をしたのか、どのような表情・口調・様子だったか、どのような気持ちだったのかなどを具体的に想像する。また、場面ごとに中心人物であるきつねの人柄を表現する「やさしい」「親切な」「かみさまみたいな」といった言葉に着目させながら、きつねの行動の理由を考え、相手（対人物）から自分に向けられた言葉によって変容していく様子を捉えられるようにする。

その際に、今までは主に教師の投げかけによって進めてきた言葉への気付きを、児童がより主体的に行えるように活動を工夫していく。

（２）学習材について（学習材観）

①「きつねのおきゃくさま」

「むかし　むかし　あったとさ。」で始まり、「とっぴんぱらりの　ぷう。」で終わる学習材「きつねのおきゃくさま」は、昔話風の語りで話が展開していく。登場人物の「きつね・ひよこ・あひる・うさぎ・おおかみ」は童話や絵本に度々登場する動物たちで、児童が親しみをもって読むことができる。また、同じような場面が繰り返され、時間の経過とともに登場人物が増えていくので、低学年の児童でもあらすじを容易に捉えることができる。また、出会った当初にはひよこたちをえさとして食べるつもりだったきつねは、物語の最後には命を懸けて三人を守るまでに気持ちを変えることになる。この大きな変化は、「なぜ三人を守ったのか」と、きつねの行動の理由を問いたくなる、心を揺さぶられる展開となっている。

この学習材では、特に次の二点の言葉がもつよさを感じさせたいと考えている。

一点目は、言葉に着目して読むことで、中心人物であるきつねの行動や様子を具体的に想像することができる点である。行動や様子をくわしくする言葉も多く、言い換えたり動作化したりすることで、きつねの行動やその理由を読み深めることができる。感情豊かな会話文、中心人物のきつねの側に立った語り手のつぶやき等も多く、きつねの行動とその理由を考えていくことができる。また、その考えを表現する方法として、本単元では日記に表すこととする。

二点目は、掛けられる言葉が、相手の思いや行動を変えていくことが分かりやすい点である。対人物であるひよこたちが語る「やさしいお兄ちゃん」「親切なお兄ちゃん」「かみさまみたいなお兄ちゃん」という言葉が、中心人物であるきつねの「やさしく」「親切で」「かみさまみたいな」行動へとつながっていく。

「小学校学習指導要領（平成２９年告示）解説国語編」には、「読むこと」における精査・解釈（文学的な文章）の指導事項として、下のように示されている。

学習指導要領解説　国語編 Ｃ（１）エ精査・解釈（文学的な文章）指導事項	具体的に想像するとは
第１学年及び第２学年 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。	登場人物について、何をしたのか、どのような表情・口調・様子だったのかを具体的にイメージしたり、行動の理由を想像したりすること。

本単元では、行動や様子、行動の理由を想像する際に、特にその行動や様子をくわしくする言葉（「かぎの言葉」と称する。）に着目させることを目指す。そこで、特に着目したい叙述を以下のように整理した。

場面	・きつねの行動や様子、気持ちを想像できる言葉 行動や様子をくわしくする言葉（「かぎの言葉」）	・きつねの気持ちに影響を与える ひよこ（あひる・うさぎ）の言葉
1	・がぶりとやろうとおもったが、やせているので考えた。 ・太らせてからたべようと。 ・「お兄ちゃん？やめてくれよ。」 ・ぶるるとみぶるいした。 ・心の中でにやりとわらった。 ・「やさしい？やめてくれったら、そんなせりふ。」 ・生まれてはじめて「やさしい」なんて言われたので、すこしぼうっとなった。 ・切りかぶにつまずいて、ころびそうになった。 ・ひよこに、それはやさしくたべさせた。 ・ぼうっとなった。	・「きつねお兄ちゃん」 ・「きつねお兄ちゃんって、やさしいねえ。」 ・「やさしいお兄ちゃん」
2	・きつねは、そうっとついていった。 ・かげで聞いた。 ・うっとりした。 ・「親切なきつね」という言葉を、五回もつぶやいた。	・「きつねお兄ちゃんは、とっても親切なの。」

	・いそいでうちに帰ると、まっていた。 ・ひよことあひるに、それは親切だった。 ・ぼうっとなった。	・「親切なお兄ちゃん」
3	・きつねは、そうっとついていった。 ・かげで聞いた。 ・うっとりして、きぜつしそうになった。 ・ひよことあひるとうさぎを、かみさまみたいにそだてた。 ・ぼうっとなった。	・「きつねお兄ちゃんは、かみさまみたいなんだよ。」 ・「かみさまみたいなお兄ちゃん」
4	・いや、まだいるぞ。きつねがいるぞ。」言うなり、きつねはとび出した。 ・きつねのからだに、ゆうきがりんりんとわいた。 ・おお、たたかったとも、たたかったとも。 ・じつに、じつに、いさましかったぜ。	
5	・はずかしそうにわらってしんだ。	
6		（語り） せかいーやさしい、しんせつな、かみさまみたいな、そのうえゆうかんなきつねのために、なみだをながしたとさ。

②ワークシート

言葉に着目しながらきつねの行動やその理由を表現できるように、本文を併記したワークシートを使用する。着目した言葉からどのようにきつねの気持ちを考えるのか、その方法を単元の初期に児童と共に確認し、その後の時間にも自分で選択できるように、ワークシートに「かぎの使い方」として記しておく。また、見付けた「かぎの言葉」は、全場面を通して１枚のワークシートに収集する。

学習の振り返りは各時間のワークシートに記し、学んだことや今後の学習で生かしたいことを思い返せるようにする。各時間の初めに前時までの学習の流れを振り返りやすくなるように、ワークシートの綴じ方を工夫する。

作品に出合わせるときには、絵本の挿絵も示し、紙芝居のような形で読み聞かせを行う。描かれているきつねの表情にも着目させたい。

（３）単元について（単元観）

本単元は、中心人物の行動や様子をくわしくする言葉に着目して読み、具体的に想像する力を育むことを目指した単元である。くわしくする言葉を「かぎの言葉」として扱うことで、その有用性を「言葉がもつよさ」として児童自身が感じ取り、今後自分でも使っていこうと思える単元の展開を目指す。また、言葉の吟味を行って物語の理解を深める方法を知り、自ら読み深めるための言葉を選択して考えられるようにする。

そのための手だてとして、まず、主語と述語を明らかにし、くわしくする言葉が存在することに意識を向けさせる。教師が助言しながら、児童自身が考えたい言葉を選択していくことで、読み深めるための言葉を見付ける方法を学んでいく。それらの言葉について、動作化や経験の想起等を通して具体的に想像し、言葉に着目して読み深める方法として項目立てる。きつねの行動や気持ちを考えて日記に表現する際に、自分が考えたい「かぎの言葉」を選択する。また、学級で読み深める際に扱った「かぎの言葉」はワークシートに収集していく。本教材を読み深めると共に、今後の文学的な文章の学習や日常的な読書でも、これらの方法を使おうとする態度の育成につなげていきたい。

また、単元を通して考える課題として、初めの場面と終わりの場面の比較から「きつねはなぜ三人を守ったのか」を設定した。単元を通じて学習課題を考えることで、ひよこに出会った当初は「えさ」と捉えていたきつねに何が起こり、三人が「おきゃくさま」に変わっていったのかを考える。単元の最初には、児童の経験から「おきゃくさま」という言葉について考え、その印象を書き留めておき、単元の終末で題名の「おきゃくさま」という言葉に再度注目し、きつねとの関係の変化を捉えさせる。これによって、「おきゃくさま」という言葉への理解の深まりを児童自身が自覚できるのではないかと考えた。

単元終了後は、読むことの学習の中で「登場人物の様子や、行動、それらをくわしくする言葉に着目し、豊かに想像しながら物語を楽しんで読む姿」や、「様子や行動を表す言葉には、想像を助ける力があることを知り、今

後も着目して読もうとする姿」、日常生活の中でも「言葉には相手の気持ちや行動を変える力があることを知り、言葉を大切に使おうとする姿」が表れることを期待する。

４　研究主題に迫るために

（１）学びの質の向上を図る単元の工夫

①言葉への気付きが「読むこと」に生きる単元構成

ア　三段階の単元構成

単元全体を、以下の三つの段階で構成した。

1　学習内容への方向付けをしながら学習材と【出合う】段階
2　学習材を繰り返し読んで考える【親しむ】段階
3　読んで考えたことを表現活動につなげる【生かす】段階

【出合う】学習材の題名に着目して読み聞かせを聞き、内容の大体と学習の流れを捉え、感想を書く。

学習材の題名「きつねのおきゃくさま」に着目させ、これまでの経験を基に「おきゃくさま」の意味や、「きゃく」「おきゃく」「おきゃくさん」といった言葉との感じ方の違いについて考えさせる。さらに、「『きつねのおきゃくさま』は誰なのだろう」と問い掛け、登場人物とその関係を意識しながら教師の読み聞かせを聞くようにする。題名の言葉に着目させることは、きつねにとっての「えさ」であったひよこ・あひる・うさぎが、「おきゃくさま」に変わるという学習材の中心となる事柄を意識させることにつながる。

登場人物の行動の理由を想像するには言葉に着目するとよいことから、この教材で扱いたい言葉の候補を児童自身が選択し、それらの言葉を中心として読み深めていく学習の流れを知る。

【親しむ】学習課題を設定し、行動や様子をくわしくする言葉に着目しながら読み、具体的に想像する。

ひよこを太らせてから食べようと考えて「心の中でにやりとわらった」第一場面のきつねと、おおかみと戦って「はずかしそうにわらって」死んだ第五場面のきつねを比較することで、児童と一緒に「なぜきつねは三人を守ったのか」という学習課題と読みの課題を設定する。学習課題の解決のために、場面を追いながら「(きつねの) 心の中をのぞくことで分かったことを、日記に表す」という学習活動を児童と共有し、単元名を考えて、学習計画を立てる。

児童が着目した言葉を基にして、行動や様子をくわしくする言葉を「かぎの言葉」として共有し、場面を理解し、きつねの行動の理由を想像する際の手掛かりとして扱う。また、それらの「かぎの言葉」をワークシートと教室掲示に収集していく。

「かぎの言葉」に着目して登場人物の行動や様子を具体的に想像する方法を「かぎの使い方」と称して、その言葉の有無によって生じる印象を考えたり、違う言葉に置き換えたりする。そして、その言葉を使った経験を想起したり、その場で動作化したりして、文脈の中での言葉の意味を豊かに考えられるようにする。これらの活動が、物語を具体的に想像する方法として有効であると児童が感じられるように、単元の後半では、児童がその方法を自ら取り入れる学習場面を設定する。

ワークシートにはその場面の本文を記載し、くわしくする言葉に印を付けて、叙述を基にしながら考えられるようにする。下段の日記の欄に記したいきつねの気持ちを考える際には、自分が選んで使った「かぎの言葉」を記せるように枠を用意し、できるだけ言葉に意識を向けて考えられるようにする。

【生かす】学習課題について自分の考えを日記・手紙形式で書き、単元の学習を振り返る。

題名の「おきゃくさま」を再度振り返り、「きつねはなぜ三人を守ったのか」という学習課題に対する自分の考えを表現する。方法としては、継続して書いてきた日記に加えて、物語全体から考えたことを反映できる手紙（きつねからひよこ・あひる・うさぎの三人への手紙、児童自身からきつねへの手紙）から、自分が書きたいと思う方法を選択できるようにする。また、登場人物の行動や様子をくわしくする言葉に着目することで、人物の行動や様子を想像することができるようになるという単元の学びについて振り返る。

イ　身に付けさせたい知識・技能の明確化

知識・技能の指導を以下のように単元計画に位置付けた。文学的な文章を読む際にも、情報の順序や共通・相違といった論理的な思考を働かせることが、内容を正しく捉えると共に、場面の様子を豊かに想像して読むことにつながる。本単元では、読むことの学習の中で、「かぎの言葉」として重要な情報を選び出すことや、「かぎの使い方」を示すことで、児童に情報と情報の関係について意識させ、語彙の量や質を高めることを目指した。

<table>
<tr><td colspan="2"></td><td>出合う</td><td colspan="4">親しむ</td><td>生かす</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td>第１時</td><td>第２時</td><td>第３時</td><td>第４時</td><td>第５時</td><td>第６時</td></tr>
<tr><td colspan="2">学習
活動</td><td>題名に着目し、学習材の大まかな内容を捉え、感想を書く。</td><td>第一場面を読み、きつねの行動を具体的に想像する。学習計画を立て、単元名を考える。</td><td>第二、三場面を読み、きつねの行動を具体的に想像する。</td><td>第四場面を読み、きつねの行動を具体的に想像する。</td><td>「わらった」をくわしくした二つの言葉に着目して読む。</td><td>学習課題について単元全体から考える。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">知識・技能</td><td>⑴言葉</td><td>○語彙
「おきゃくさま」の意味や「きゃく」「おきゃく」との違いについて考える。</td><td>○語彙
行動や様子をくわしくする言葉に気付く。
○主語と述語
きつねを主語とする述語を確かめる。</td><td colspan="2">○語彙
行動や様子をくわしくする言葉に着目し、知識や経験と結び付けながら、きつねの行動の理由や気持ちを想像する。
きつねの人柄を表す「やさしい」「親切な」「かみさまみたいな」の違いについて考える。</td><td></td><td>○語彙
題名の意味を考える。
くわしくする言葉に着目して考える。</td></tr>
<tr><td>⑵情報と情報との関係</td><td>○事柄の順序
挿絵と文章を対応させながら、時系列で場面を整理する。
○共通、相違
同じような場面の繰り返しで登場人物が増えていくことを理解する。</td><td colspan="2">○事柄の順序
○共通、相違
きつねの人柄を表す言葉が変化していることを確かめる。</td><td></td><td>○共通・相違
「わらった」をくわしくする言葉の違いに着目し、きつねの気持ちについて考える。</td><td></td></tr>
</table>

児童が文章を読む上で、表現に着目し、言葉への自覚を高めていけるようにするためには、文学的な文章の読みの学習においても、「情報の扱い方に関する事項」に関わる内容を意識して指導していくことが必要であると考えた。文学的な文章における「情報」とは、叙述であると考える。叙述を基に、内容の大体を捉えたり、登場人物の行動や行動の理由を具体的に想像したりすることで、言葉に着目して読む力を育んでいく。

②豊かな語彙の拡充

ア　きつねの行動や様子をくわしくする言葉（「心の中でにやりと」「はずかしそうに」「そうっと」など）

身近なことを表す語句の中でも、事物や体験したことを表す言葉として考えさせていく。例えば「がぶりと」や「そうっと」といった言葉に着目し、それらの言葉を手掛かりにきつねの行動やその理由を想像させる。特に「心の中でにやりとわらった」と「はずかしそうにわらって（しんだ）」は、「わらう」という行動が同じでありながら、きつねの気持ちの大きな変化を捉えることができるものである。言葉の理解を深める際には、次の四点の考え方が選択できるようにする。

①その言葉が無かったらどう感じるかを考える。

②他にどんな言い方ができるかを比較して、感じ方の違いを考える。

③実際に動いてみたらどう感じるかを考える。

④似たような経験はないかを思い起こす。

これによって、登場人物の行動や様子を具体的に想像して理解を深めるとともに、言葉に対する認識を広げていくことができるだろうと考えた。

イ　きつねの人柄を表す言葉（「やさしい」「親切」「かみさまみたい」「ゆうかん」など）

お腹を空かせたきつねは、出会ったばかりのひよこを「太らせてから食べよう」と考える。しかし、ひよこから「お兄ちゃん」と呼ばれる。さらに、あひるやうさぎとも出会い、「やさしいお兄ちゃん」「親切なお兄ちゃん」「かみさまみたいなお兄ちゃん」と言われ続けることで、ひよこだけでなくあひるやうさぎまでも「かみさまみたいにそだてる」ようになる。ひよこたちの言葉ときつねの行動を結び付けて考えると、きつねの行動の理由や気持ちを想像することができる。また、きつねの行動を場面の経過とともに追っていくと、ひよこたちに対するきつねの気持ちの変化をつかむことができる。

ウ　題名にある「おきゃくさま」（相手との関係性や相手への気持ちによって呼称を変化させている。）

身近なことを表す語句の中でも、周りの人について表す言葉として考えさせていく。客を表す呼称は、「おきゃく」「おきゃくさん」「おきゃくさま」と、状況によって言い方が変わる。単元初期に児童の経

験を想起させ、単元の終末に題名の「おきゃくさま」の意味を確認する。ひよこたちの存在が、きつねにとっての「えさ」から「おきゃくさま」と呼べる守りたい存在に変化していったと捉えることができる。これによって、物語の理解を深めるとともに、言葉がもつ語感や表される関係性を知り、言葉に対する認識も深めさせていく。

③学習の成果物等の活用・共有

きつねの心の中を表現する日記形式のワークシートを用いる。１単位時間では、友達と比較することで考えの違いに気付き、どの「かぎの言葉」に着目しているのか考えるきっかけになると考える。第６時では、これまで作成してきたワークシートを並べて前時までの学習を振り返る。そうすることで、きつねの変容を視覚的に捉えやすくする。また、学習を進めて見付けた「かぎの言葉」は中央のワークシートに収集していく。これによって、言葉に着目しながら物語を読む方法を学んでいることが意識しやすくなると考える。

（２）学習改善・授業改善につながる評価活動の工夫

①評価規準、評価方法の明確化

単元構造図に、本単元で求める児童の具体的な姿を示す。総括的評価（記録に残す評価）と形成的評価（指導に生かす評価）、評価方法をあらかじめ明確にして評価計画を立てることで、学習改善・授業改善に役立てる。

１単位時間ごとに評価の重点を設定するが、内容のまとまりの中で柔軟に評価していく。

	出合う	親しむ				生かす
	第１時	第２時	第３時	第４時	第５時	第６時
総括的評価（記録に残す評価）			知・技	主体的	思・判・表	思・判・表 主体的
形成的評価（指導に生かす評価）	知・技 思・判・表	知・技 主体的	思・判・表 主体的	思・判・表	主体的	

総括的評価（記録に残す評価）だけでなく、形成的評価（指導に生かす評価）も単元構造図に明記し、児童の学習状況を把握する。座席型評価補助簿を用いて、前時の目標に達成していない児童を把握し、次時の指導に役立て、支援を充実させる。

②自らの学びを見通し、振り返り、調整するための手だて

くわしくする言葉に着目して読む学習過程を工夫する。今まで学んできた主語・述語に加えて、登場人物のより具体的な行動や様子を想像し、気持ちを想像する助けとなる言葉が存在することに気付かせる。本単元ではどの言葉に着目したいかを、児童自身が考える時間を設定する。読み深める時には、その言葉についてどのように考えればよいのかという方法も項目立てて視覚化し、児童がその方法を選択するように促す。また、「かぎの言葉」を収集していく活動と、単元の最後に振り返る活動を通して、児童自身が「想像を広げて読む方法」を学んできたことが実感できるようにする。これらの活動によって、自分自身で学びを進めていく経験の初期段階として本単元を位置付け、今後の学習でも「学ぶ方法」の習得を意識していくようになることを期待する。

学習の振り返りでは、児童が記録として考えをまとめやすいように、「がんばったこと」「分かったこと」「友達の意見を聞いて考えたこと」（今日の学習を振り返って）、「これからやりたいこと」（今後の学習に向けて）の四つの観点を示す。

（３）言葉の力の活用を意識した学習活動の工夫

①身に付けた力の単元内での活用

本単元内の読み取りの際に、既習の物語単元「スーホの白い馬」等での読み取りも想起させながら、本文から考える方法として、「なかったら（有無）」「べつの言い方（言い換え）」「やってみよう（動作化）」「思い出そう（経験の想起）」等に気付けるようにする。これらの方法は「かぎの使い方」として示し、単元の前半には教師と共に実践する。単元後半には言葉を基に考える際に、児童が自分で選択できるように促していく。

②身に付けた力の単元以降での発揮

本単元で身に付ける「くわしくする言葉に着目して具体的に想像する力」や、「中心人物の変容に関わる大事な言葉に着目し、行動とその理由を考える力」は、次年度以降の文学的な文章の学習や、読書を楽しむことに生かすことができる。また、きつねが三人の対人物の言葉によって変容した姿から、児童は「言葉には相手の気持ちや行動を変える力がある」という言葉がもつよさを感じることができる。それは、日常生活において言葉を大切に使おうとしたり、「やさしい」「親切」など相手を肯定的に表現しようとしたりすることにつながると考える。

5　単元計画

過程（次）	時	学習活動	○指導上の留意点	◆評価規準　★評価方法
出合う	1	題名に着目し、学習材の大まかな内容を捉え、感想を書く。 ①「おきゃく」「おきゃくさん」「おきゃくさま」の違いについて、意味や経験、感じることから考える。 ②「きつねのお客様は誰なのか」を考えながら学習材の読み聞かせを聞く。 ③登場人物と話に出てくる順序を確認し、行動のみの日記を示して、大体の内容を捉える。 ④食べるつもりだったが三人を守ったきつねの変化について考えていくことを知る。 ⑤きつねの気持ちが想像できると思う言葉を全文から探して印を付ける。 ⑥感想を書く。	○題名の「おきゃくさま」という言葉を取り上げ、自分の経験と結び付けて考えさせる。別の言葉との語感の違いに気付かせる。 ○学習材の特徴の一つである繰り返しの場面に気付けるよう、挿絵を使った紙芝居の形で読み聞かせをする。 ○きつねの行動の理由が最初と最後で変わっていることを押さえる。 ○言葉に着目して考える方法を確認する。 ○心に残った場面や疑問に思ったことを書くよう促す。	
親しむ	2	第一場面を読み、きつねの行動を具体的に想像する。学習計画を立て、単元名を考える。 ①数名の初発の感想を知り、学習課題を考えて学習の見通しをもつ。 ②第一場面を音読する。 ③きつねを主語とした述語を確認する。 ④様子や行動を表す言葉に加えて、それをくわしくする言葉に着目すると、より具体的に想像できることを確認する。 ⑤「かぎの言葉」として、くわしくする言葉に着目して第一場面を読む。 ⑥きつねの行動と気持ちを考えて、日記に書く。 ⑦学習計画、単元名を考え、単元末の言語活動について知る。 ⑧振り返りを書く。	○学習のめあてを考え、活動の見通しをもたせる。 ○きつねを主語とした場合の述語が何であるかを考えさせる。 ○登場人物の心の中をのぞくために、くわしくする言葉に着目するとよいことに気付かせる。 ○言葉に着目して考える方法を確認する。 ○「おにいちゃん」「やさしい」「ぼうっとなった」に着目させ、自分の経験と照らし合わせて言葉の意味や言葉から受ける感じを考えさせる。 ○ひよこの言った「やさしい」がきつねの行動「やさしく食べさせた」とつながることを	

			板書で視覚化する。	
	3	第二、三場面を読み、きつねの行動を具体的に想像する。 ①前時を振り返る。 ②前時に書いたワークシートを友達と見合う。 ③第二、三場面を音読する。 ④きつねの行動や様子をくわしくする言葉に着目し、本文を根拠にして具体的に想像する。 ⑤「かぎの言葉」がどこに当たるかを確かめて、同じ言葉や違う言葉を比べながら読む。 ⑥きつねの行動と気持ちを考えて、日記に表す。 ⑦振り返りを書く。	○行動の理由を想像し、きつねの言葉にして表現させる。 ○学習方法やきつねの気持ちの変化を確認する。 ○「そうっと」「かげで」「うっとりした」「きぜつしそうになった」などに着目させ、きつねの気持ちが分かる言葉について、動作化したり、身近なことから語句を思い浮かべたりして理解させる。 ○「やさしい」「親切な」「かみさまみたいな」の違いについて考えさせる。	◆身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。〔知識・技能①〕 ★発言・ワークシート ・様子や行動を表す言葉と関連付けて きつねの気持ちを考え、日記を書いているかの確認。
	4	第四場面を読み、きつねの行動を具体的に想像する。 ①前時を振り返る。 ②第四場面を音読する。 ③きつねの行動や様子に着目し、おおかみと戦うきつねの行動や様子、三人に対する気持ちを、本文を根拠にして想像する。 ④「かぎの言葉」や繰り返しの言葉を確かめて読む。 ⑤きつねの行動と気持ちを考えて、日記に表す。 ⑥振り返りを書く。	○主語と述語、複合語、擬態語、言葉の繰り返しなどに着目させ、きつねの様子や行動を具体的に想像させる。 ○言葉に着目して考える方法を児童が選べるように掲示しておく。 ○着目させる言葉に応じて、声に出して読んだり、別の言葉と比べたり、経験を想起させたりしながら児童の気付きを引き出す。	◆進んで登場人物の様子や行動に着目して具体的に想像し、学習課題に沿って学んだことを生かして中心人物の行動やその理由を表現しようとしている。〔主体的に学習に取り組む態度〕 ★発言・ワークシート ・言葉に着目して考える方法を選べるように促したり、気持ちを考えるための「かぎの言葉」を自分で選ぼうとしたりしているかの確認。
	5 （本時）	「わらった」をくわしくした二つの言葉に着目して読む。 ①前時までの学習を振り返る。 ②第一、四、五場面を音読する。 ③第一場面の「心の中でにやりとわらった」と、第五場面の「はずかしそうにわらってしんだ」を取り上げて、動作化をしたり、経験を話し合ったりして「かぎの言葉」のもつ力を確認する。 ④はずかしそうにわらったきつねの気持ちを考えて、日記に書く。 ⑤振り返りを書く。	○これまでのワークシートを見直しながら、きつねの行動と気持ちの違いを確認するよう促す。 ○「わらった」につながる言葉を、自分の経験等から思い起こし、言葉によって気持ちが想像できることを確認する。	◆「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。〔思考・判断・表現①〕 ★発言・ワークシート ・きつねの様子や行動を表す言葉と関連付けてきつねの気持ちを考え、日記を書いているかの確認。

生かす	6	学習課題について単元全体から考える。 ①全文を音読する。 ②ワークシートを見直して、きつねの行動と気持ちを振り返る。 ③単元の最初での「おきゃくさま」の話し合いを思い返し、なぜ三人がきつねの「おきゃくさま」なのか、なぜ三人を守ったのかを考える。 ④日記や手紙など、自分で表したい方法で、第六場面を表現する。 ⑤単元で学んだことを振り返る。	○「おきゃくさま」という言葉について、単元の初めの考えと比較し、題名の意味を考えさせる。 ○中心人物の気持ちや考えを言葉で表現させる。	◆進んで登場人物の様子や行動に着目して具体的に想像し、学習課題に沿って学んだことを生かして中心人物の行動やその理由を表現しようとしている。〔主体的に学習に取り組む態度〕 ◆「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。〔思考・判断・表現①〕 ★ワークシート ・きつねの様子や行動を表す言葉と関連付けて日記や手紙を書いているかの確認。
	単元後	・登場人物の様子や行動、それらをくわしくする言葉に着目し、豊かに想像しながら物語を楽しんで読む。 ・様子や行動をくわしくする言葉には、具体的な想像を助ける力があることを知り、今後も着目して読もうとする。 ・言葉には相手の気持ちや行動を変える力があることを知り、言葉を大切に使おうとする。		

６　本時の学習

（１）本時のねらい

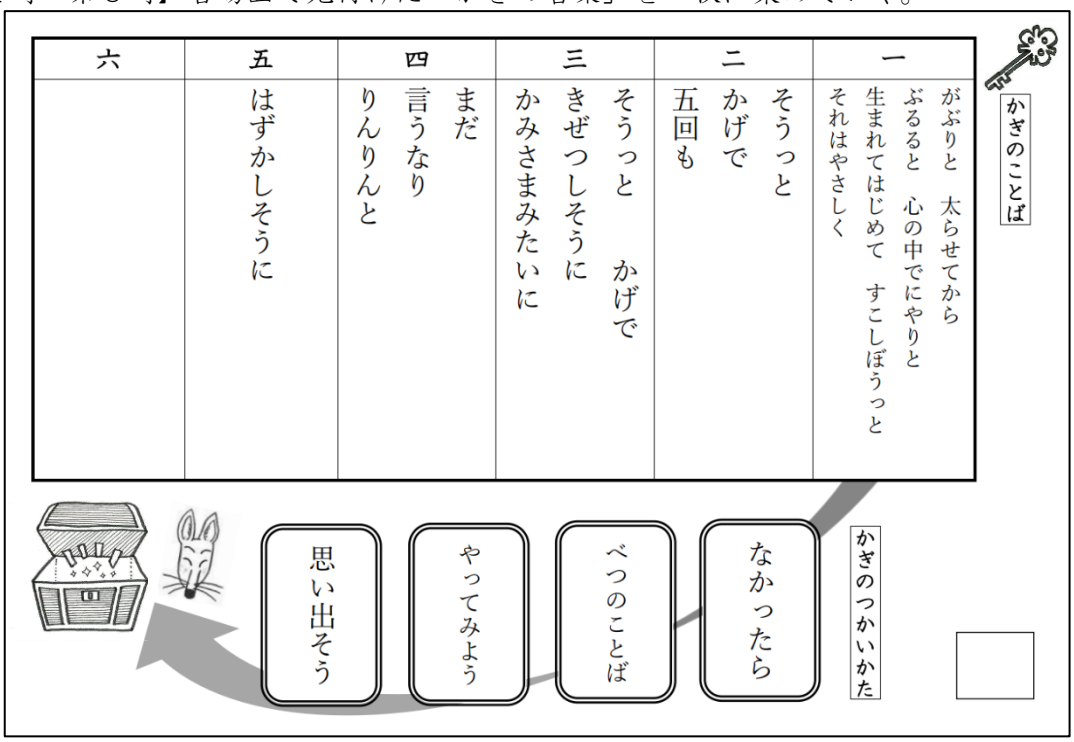
場面の様子に着目して、二つの場面のきつねの行動を具体的に想像することができる。

（２）本時の展開

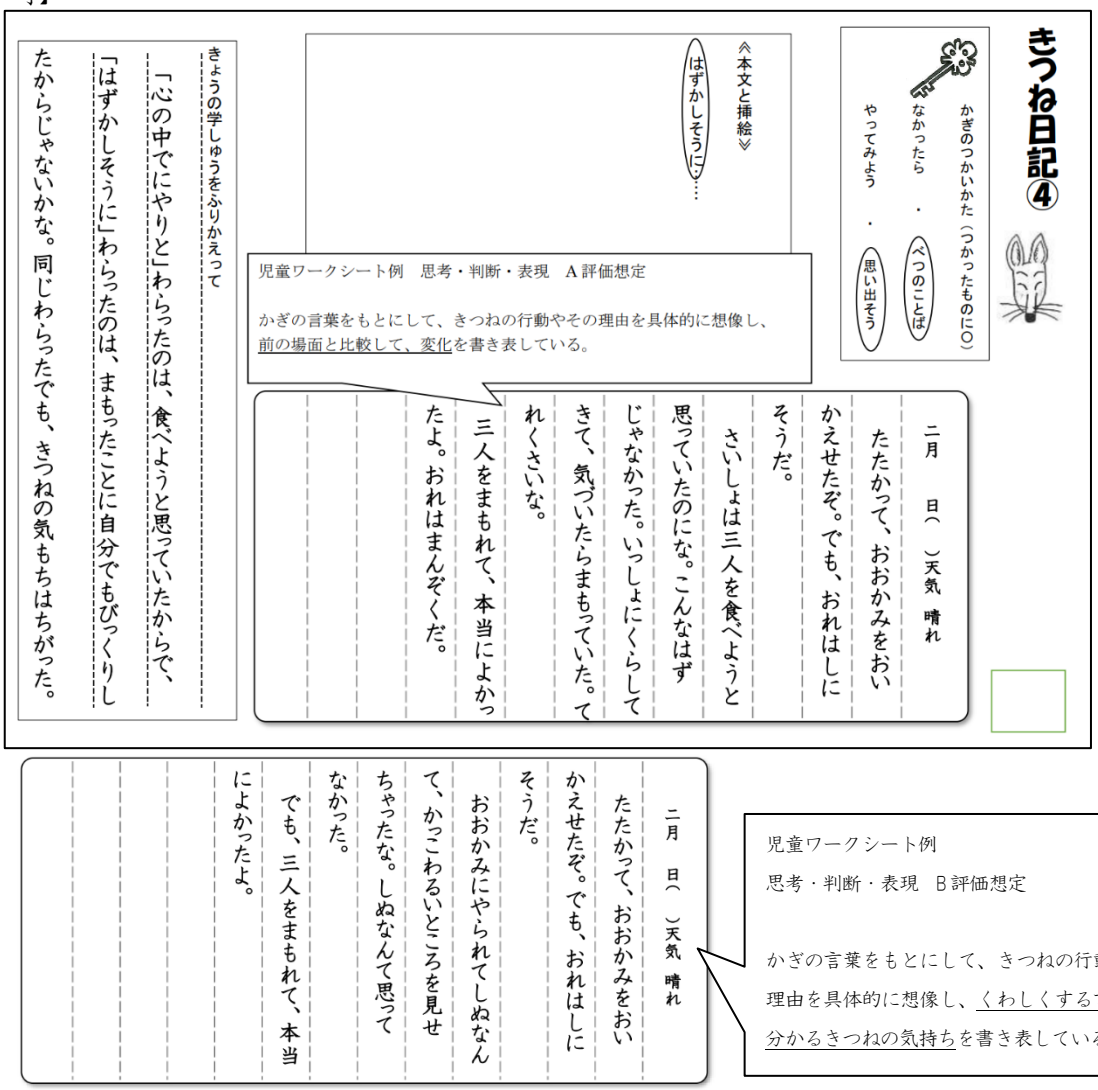
学　習　活　動	○指導上の留意点	◆評価規準　★評価方法
１　前時の学習を振り返り、本時のめあてを確かめる。	○課題の設定については、初発の感想等を生かして自分たちで設定した課題であることを思い起こさせる。 ○これまでのワークシートを見直しながら、きつねの行動を確認するよう促す。	
「わらった」をくわしくする言葉をくらべて読もう		
２　第一、四、五場面を音読する。	○言葉を意識しながら読むように促す。	
３　第一場面の「心の中でにやりとわらった」を取り上げて、動作化をしたり経験を話し合ったりし、きつねの気持ちを想像する。	○「心の中でにやりと」について、きつねの気持ちを想像させる。 ○言葉について考える方法を選ぶように促す。 「かぎの使い方」 ①「なかったら」（有無） ②「べつの言葉」（言い換え） ③「やってみよう」（動作化） ④「思い出そう」（経験の想起）	◆「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。〔思考・判断・表現①〕 ★発言・ワークシート ・きつねの様子や行動を表す言葉と関連付けて　きつねの気持ちを考え、日記を書いているかの確認。
４　第五場面の「はずかしそうにわらってしんだ」を取り上げて、動作化をしたり経験を話し合ったりする。	○「わらった」につながる自分の経験を想起させ、どのような言葉でくわしくできるかを考えさせる	
５　きつねの行動を思い返し、なぜ「はずかしそうにわらった」のかを考える。	○「はずかしそうに」について、きつねの気持ちを想像させる。 ○言葉について考える方法を選ぶように促す。	○概ね満足できる児童への次時以降の手だて 二つ以上の場面でのきつねの気持ちの違いや、なぜそう変わったのかを思い起こして書くように促す。
６　第五場面のはずかしそうにわらったきつねの気持ちを考えて、日記に書く。	○その日の出来事だけではなく、今までのきつねの行動についても触れながら書くように促す。	○概ね満足できる状況を目指す児童への次時以降の手だて くわしくする言葉から分かるきつねの気持ちを表すように促す。
７　書いた日記を交流する。		
８　本時の学習を振り返り、次時への見通しをもつ。		

7　資料

【第２時～第５時】各場面で見付けた「かぎの言葉」を一枚に集めていく。



【第５時】



下学年分科会　単元名「心の中をのぞいて日記に書こう（仮）」（全６時間）単元構造図
学習材「きつねのおきゃくさま」

ねらい：言葉に着目して読むことを通して、描かれた登場人物の行動とその理由を具体的に想像する力を身に付ける。
言葉に着目して読む方法（①言葉の有無、②言葉の言い換え、③動作化、④経験の想起）を学ぶ。

出合う

学習活動

1 学習材と出合う
題名に着目し、学習材の大まかな内容を捉え、感想を書く。

①「おきゃく」「おきゃくさん」「おきゃくさま」の違いについて、意味や経験、感じることから考える。
②「きつねのお客様は誰なのか」を考えながら学習材の読み聞かせを聞く。
③登場人物と話に出てくる順序を確認し、行動のみの日記を示して、大体の内容を捉える。
④食べるつもりだったが三人を守ったきつねの変化について考えていくことを知る。
⑤きつねの気持ちが想像できると思う言葉を全文から探して印を付ける。
⑥感想を書く。

児童の意識

○お店に買いに来る人や、家に来る人にも使う。「おきゃく」はふつうの言い方、「おきゃくさん」は丁寧、「おきゃくさま」はもっと丁寧。
○ひよこ→あひる→うさぎの順に増えていって、きつねはおおかみと戦って死んでしまった。
○「親切」って言われてうっとりするきつねがおもしろいな。
○最初は食べようとしていたんだな。どうしておおかみから守ろうとしたのかな。

知識・技能

（１）オ　語彙　身近なことを表す語句
○「きゃく」「おきゃくさん」「おきゃくさま」というように、場面や相手によって用いられる言葉が異なることを知識や経験から想起する。
（２）ア　情報と情報との関係　事柄の順序
○挿絵と文章を対応させながら、時間の経過と話の展開を整理する。
（２）ア　情報と情報の関係　共通・相違
○場面を比べ、繰り返しに気付く。登場人物が増えていくことやきつねの人柄を表す言葉の違いに気付く。

親しむ

単元の学習課題：「きつねはなぜ三人を守ったのか、きつねの気持ちを考えて日記に書こう。」

2 課題設定・見通し
第一場面を読み、きつねの行動を具体的に想像する。学習計画を立て、単元名を考える。

①数名の初発の感想を知り、学習課題を考えて学習の見通しをもつ。
②第一場面を音読する。
③きつねを主語とした述語を確認する。
④様子や行動を表す言葉に加えて、それをくわしくする言葉に着目すると、より具体的に想像できることを確認する。
⑤「かぎの言葉」として、くわしくする言葉に着目して第一場面を読む。
⑥きつねの行動と気持ちを考えて、日記に書く。
⑦学習計画、単元名を考え、単元末の言語活動について知る。
⑧振り返りを書く。

○「みぶるいした」って何だろう。
○「にやりと笑う」ってどういうことだろう。「心の中」って書いてあるよ。
○「『やさしく』食べさせた」ってあるよ。「食べさせた」だけと違うな。
○ひよこと会って食べさせたけれど、いろいろなことを考えていたんだな。
○ひよこを食べたいきつねと守りたいきつねの両方がいるんだよ。どんな日記にしようかな。

（１）オ　語彙　身近なことを表す語句
○「がぶりとやる」「心の中でにやりとわらった」「ぼうっとなった」など、様子や行動をくわしくする言葉があることに気付く。
（１）カ　文や文章　主語と述語
○きつねを主語とする述語を確かめる。
（２）ア　情報と情報との関係　事柄の順序・共通・相違
○きつねの人柄を表す言葉が変化していることに気付く。

3 課題追究①
第二、三場面を読み、きつねの行動を具体的に想像する。

①前時を振り返る。
②前時に書いたワークシートを友達と見合う。
③第二、三場面を音読する。
④きつねの行動や様子をくわしくする言葉に着目し、本文を根拠にして具体的に想像する。
⑤「かぎの言葉」がどこに当たるかを確かめて、同じ言葉や違う言葉を比べながら読む。
⑥きつねの行動と気持ちを考えて、日記に表す。
⑦振り返りを書く。

○きつねはひよこが逃げると思っているけど、違ったね。
○「親切」って言われてすごくうれしい。五回もつぶやいているよ。「親切だった」ってどんなことをしたんだろう。
○気絶しそうなくらいうれしかったんだな。神様みたいに育てている。食べさせるだけじゃない。
○守りたい気持ちがすごく大きくなった。挿絵のきつねの顔も、すごく気持ちよさそう。

（１）オ　語彙　身近なことを表す語句
○「そうっとついていった」「五回もつぶやいた」「気ぜつしそうになった」など、様子や行動をくわしくする言葉から、きつねの行動の理由や気持ちを想像する。
○人柄を表す「やさしい」「親切な」「かみさまみたいな」という言葉の違いと、きつねの行動や気持ちを想像する。
（２）ア　情報と情報との関係　事柄の順序・共通・相違
○きつねの人柄を表す言葉が変化していることに気付く。

4 課題追究②
第四場面を読み、きつねの行動を具体的に想像する。

①前時を振り返る。
②第四場面を音読する。
③きつねの行動や様子に着目し、おおかみと戦うきつねの行動や様子、三人に対する気持ちを、本文を根拠にして想像する。
④「かぎの言葉」や繰り返しの言葉を確かめて読む。
⑤きつねの行動と気持ちを考えて、日記に表す。
⑥振り返りを書く。

○きつねは、おおかみに三人を食べられるのが嫌だから戦ったんだ。食べたい気持ちはまだある。
○きつねは、おおかみから三人を守るために戦ったんだと思う。
○「いるぞ」だけじゃなくて、「まだ」とくわしくしている。自分もひよこたちの仲間だと思っている。
○「言うなり」とあるから、言ってすぐ。迷うことはなかった。
○「たたかったとも」が二回。長い時間かかったからだ。えさだと思っていたら、自分が死ぬまでは戦わないんじゃないかな。

（１）オ　語彙　身近なことを表す語句
○「いさましい」「言うなり」「とび出した」などの言葉から、きつねの行動や様子を想像する。
○「たたかったとも、たたかったとも」などの繰り返しの言葉が、きつねの行動を強調していることに気付く。
○様子や行動をくわしくする言葉「まだいるぞ」「りんりんとわいた」に着目し、きつねの行動の理由や気持ちを想像する。

5 課題追究③　（本時）
「わらった」をくわしくした二つの言葉に着目して読む。

①前時までの学習を振り返る。
②第一、四、五場面を音読する。
③第一場面の「心の中でにやりとわらった」と、第五場面の「はずかしそうにわらってしんだ」を取り上げて、動作化をしたり、経験を話し合ったりして「かぎの言葉」のもつ力を確認する。
④はずかしそうにわらったきつねの気持ちを考えて、日記に書く。
⑤振り返りを書く。

○ぼくたちはどんな時に笑うかな。それはどう笑ったっていうの？
○「かぎの言葉」がなかったら、なんだか楽しそうな感じなのに、あると違う感じだな。
○「にやりと」ってどんな笑い方だろう。他の言い方だとどうなるかな。
○「心の中」だったら、ひよこにはどんな顔をしたのかな。
○「はずかしそう」って、どんな笑い方だろう。何がはずかしいんだろう。
○きつねが死んでしまったのは、「そのばん」だから、時間があったんだ。きつねと三人は話をしたのかな。

（２）ア　情報と情報との関係　共通・相違
○一場面と五場面を比べ、きつねの「わらった」という行動について、「心の中でにやりと」と「はずかしそうに」という行動をくわしくする言葉の違いに着目し、きつねの行動や様子とその理由を想像する。

生かす

6 まとめ
学習課題について単元全体から考える。

①全文を音読する。
②ワークシートを見直して、きつねの行動と気持ちを振り返る。
③単元の最初での「おきゃくさま」の話合いを思い返し、なぜ三人がきつねの「おきゃくさま」なのか、なぜ三人を守ったのかを考える。
④日記や手紙など、自分で表したい方法で、第六場面を表現する。
⑤単元で学んだことを振り返る。

○ひよこたちが、「親切だ」「神様だ」って言ってくれたから、きつねもそうなりたいって思ったのかな。日記に書こうかな。
○最初は「おきゃくさま」じゃなかったけど、育てているうちに、大切な「おきゃくさま」になったと思う。
○きつねも三人に「ありがとう」って言うと思うな。手紙を書こうかな。
○くわしくする言葉があると、気持ちがよく分かるんだな。
○言葉は大事だな。ぼくも、相手が嬉しくなる言葉を使いたい。

（１）オ　語彙　身近なことを表す語句
○「おきゃくさま」という言葉に着目し、単元の初めにもっていた印象と比べて題名の意味を考える。
○くわしくする言葉に着目すると、行動を具体的に想像したり、理由を考えたりできることを感じる。
○三人の言葉で、きつねの行動と気持ちが変わっていることに気付く。

単元終了後の日常生活において
①登場人物の様子や行動、それらをくわしくする言葉に着目し、豊かに想像しながら物語を楽しんで読む。
②様子や行動をくわしくする言葉には、具体的な想像を助ける力があることを知り、今後も着目して読もうとする。
③言葉には相手の気持ちや行動を変える力があることを知り、言葉を大切に使おうとする。

評価

	出合う	親しむ				生かす
評価規準		知 身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。	主 進んで登場人物の様子や行動に着目して具体的に想像し、学習課題に沿って、学んだことを生かして中心人物の行動やその理由を表現しようとしている。	思・判・表 「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。	思・判・表 「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。 主 進んで登場人物の様子や行動に着目して具体的に想像し、学習課題に沿って、学んだことを生かして中心人物の行動やその理由を表現しようとしている。	
具体的な姿		○様子や行動を表す言葉と関連付けてきつねの気持ちを考え、日記を書いている。	○手掛かりとなる言葉を見付け、きつねの行動とその理由を具体的に想像しようとしている。 ○読み取った内容を生かし、日記を書こうとしている。	○「わらった」をくわしくする言葉に着目し、きつねの気持ちの違いを捉えている。	○「おきゃくさま」という言葉に着目して登場人物の関係を考えている。 ○各場面から読み取ったことを基にして、手紙や日記を書いている。	
指導に生かす評価	知・技　（１）オ 思・判・表　Ｃ（１）エ	知・技　（１）オ 主体的	思・判・表　Ｃ（１）エ 主体的	思・判・表　Ｃ（１）エ	主体的	